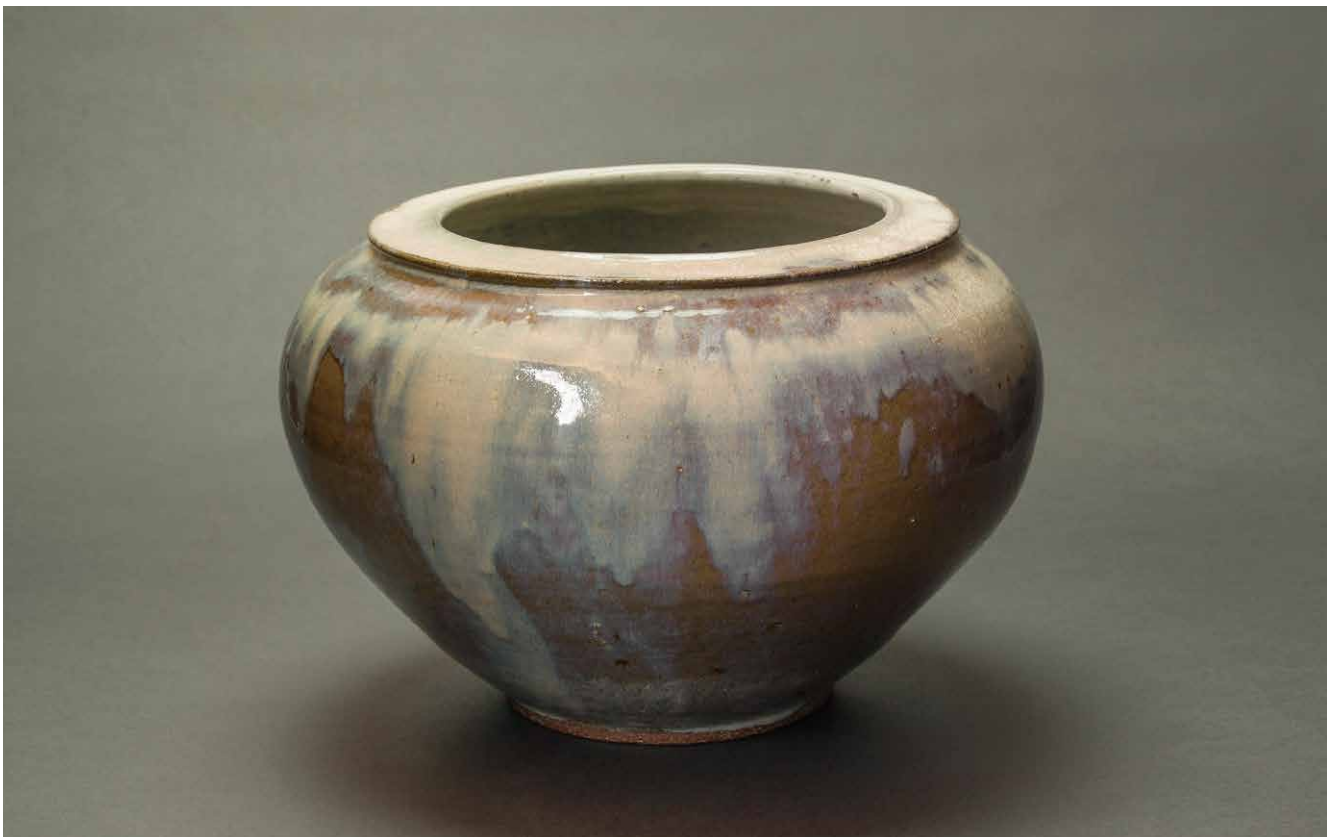




6401-161
柿釉黒流壺



6401-024
麦藁手四方瓶



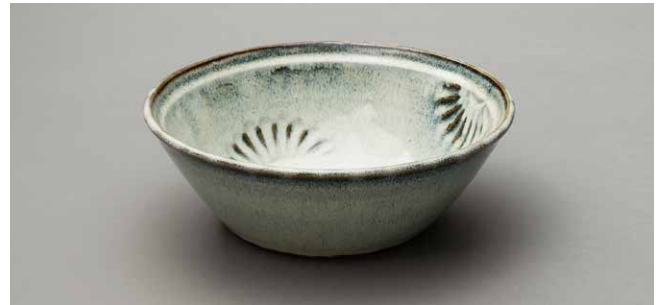
6401-127
海鼠釉大壺



6401-055
呉須面取湯呑



6401-073
掛分面取コーヒー碗・皿



6401-004
海鼠釉菊文鉢



6401-019
飴釉青描ドラ鉢



6401-051
飴釉イッチン湯呑



6201-032
海鼠釉面取筒湯呑

6401-005
糠釉把手付角鉢



6201-010
黒釉筒描茶器



6201-014
飴釉線彫文ジョッキ



6201-008
飴釉白流しローソク徳利



6401-143
鉄流掛ローソク徳利



6401-014
鉄絵蓋物鉢



6401-093
流掛蓋付丹



6401-011
飴釉渦巻鉢



6401-059
線彫湯呑



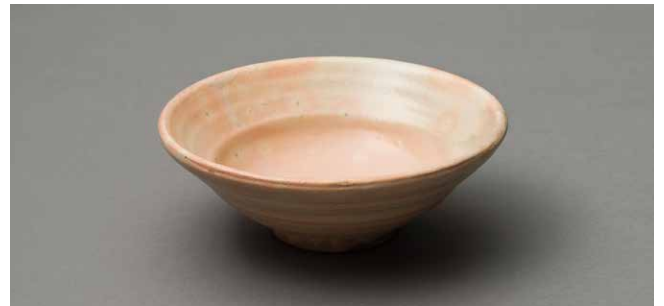
6401-165
糠釉コーヒー碗



6401-109
海鼠釉茶碗



6401-041
自然釉水指



6401-107
粉引茶碗(御本手茶碗)



6401-110
柿釉櫛目茶碗



6401-111
鉄釉窯変面取茶碗



6401-113
黒釉茶碗

生田作品の 特徴

生田作品の特徴を読み解くキーワードとして、展覧会に出品等されて高い評価を得た「大鉢・大皿」、生田の代名詞ともいえる技法「面取」「鑄」、初期から継続して作成された「扁壺」「壺・瓶」、最も製作に力を入れた「生活雑器」、丹波焼の歴史から学んだ「茶陶」をあげることができる。

面取 (めんとり)

面取とは轆轤成形の後、生乾きの胎土の表面をヘラや包丁で削って多面体にする技法である。丹波焼には江戸時代初期頃、六角に成型し鉛釉や黒釉を掛け焼成した朝倉山椒壺がある。生田は古丹波焼の意匠を研究し多くの面取りの器を作っている。



▲生乾きの胎土を包丁で削り面をつくる



作例:《鉛釉面取壺》(朝倉山椒壺)

鑄 (しのぎ)

鑄とは胎土の表面を削ってできる稜線文様で、またその文様をつける装飾技法。神戸で見つけた南方支那の酒器の胴部にある鑄文様をヒントに自作の中に取り入れたと言われ、生田の陶業の後期を代表するもの。生田の鑄は帯金を加工した自作の工具を使い、細く勢いのある鑄で作品の景色を整えている。



▲生乾きの胎土を帯金で細く文様をつくる



作例:《白釉菊文鉢》

扁壺 (へんこ)

扁壺は口の造りの小さい壺や瓶の胴を二方から平たく叩いて扁平に成形した形状で、上から見ると断面が楕円または長方形の形をしている。生田が初期から継続的に手掛けてきた扁壺は、糠釉、鉛釉、黒釉、海鼠釉などの釉薬を施し、味わいのある器が多い。

生活雑器

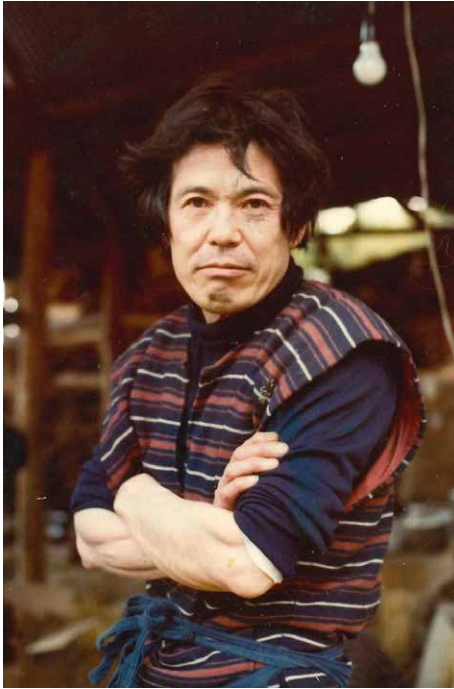
日本六古窯の一つである丹波は壺、すり鉢など生活雑器を作り続けてきた歴史がある。生田は河井寛次郎から離れ伝統的な丹波の技法を学び、「展覧会でほめられるより、台所でほめられたい」と多くの雑器を作った。最盛期には年間12回登り窯に火を入れている。

茶陶 (ちゃとう)

丹波焼では、江戸時代前期に小堀遠州らの指導で「遠州丹波」と称された茶碗、水指、茶入など名器が数多く誕生している。生田はその歴史に学び、窯の近くで産出される「ダット岩」から採取した土を杵で叩き大きな石を取り除き胎土として、茶碗、水指、建水など数多く製作している。

生田和孝

KAZUTAKA IKUTA



写真所蔵：生田公蔵氏

略歴

- 昭和 2(1927)年 5月18日、中北條村大字江北にて、父・生田貢、母・勝野の次男として生まれる。
- 昭和 16(1941)年 14歳 4月、鳥取県立倉吉中学校(現倉吉東高等学校)に入学。
- 昭和 19(1944)年 17歳 8月、倉吉中学校を中退、海軍甲種飛行予科練習生として美保海軍航空隊に入隊。
- 昭和 20(1945)年 18歳 3月、石川県の小松海軍航空隊に移る。8月、終戦となり舞鶴にて除隊し帰郷。
- 昭和 22(1947)年 20歳 父の従兄の日本画家・引田逸牛の知己で濱田庄司・河井寛次郎に近い堀尾幹雄の勧めで陶工を志し、河井に師事すべく京都に出る。しかし、河井は仕事を休止していたため五条坂の藤平窯で河井の甥・河井武一の指導を受ける。
- 昭和 26(1951)年 24歳 河井寛次郎のもとに弟子入りし、5年間助手を務める。この間陶技を向上させ河井や濱田に技量を認められるまでに成長する。
- 昭和 30(1955)年 28歳 河井のもとを離れ、独立して雑器づくりに専念するため一時帰郷。
- 昭和 31(1956)年 29歳 愛媛県砥部町で食器工場を経営する阿部祐工(濱田庄司の弟子)の下で3ヶ月働いた後、兵庫県多紀郡今田町上立杭(現丹波篠山市)の市野利雄の窯に移り、丹波焼の技法を学ぶ。
- 昭和 34(1959)年 32歳 5月、西伯郡日吉津村の田中克子と結婚。市野窯から離れ、下立杭今田町釜屋に築窯し自作を焼成する。11月、「日本民藝館展」に雑器を初めて出品し、入選。
- 昭和 37(1962)年 35歳 東京三越本店の主催で第1回「生田和孝作陶展」を開催。引田逸牛が賛助出品し壁面を飾る。『陶説』9月号において磯野風船子に有望新人と評価される。
- 昭和 38(1963)年 36歳 第37回「国画会展」の工芸部門に初出品。この年より広島市の福屋でも個展を開催。
- 昭和 39(1964)年 37歳 山下碩夫、清水俊彦が助手として入る。
- 昭和 42(1967)年 40歳 「日本民藝館展」に《海鼠釉鎗手鉢》を出品し、奨励賞を受賞。山下清志が助手として入る。
- 昭和 45(1970)年 43歳 第44回「国画会展」に《糠釉鎗手鉢》を出品し、新人賞を受賞。河本賢治が助手として入る。
- 昭和 46(1971)年 44歳 国画会会友に推挙。柴田雅章が助手として入る。
- 昭和 48(1973)年 46歳 6月、第2回「日本陶芸展」の第三部(民芸部門)に《糠釉鎗手大深鉢》を出品、国際交流基金が主催する南米巡回展の作品に選抜。
- 昭和 50(1975)年 48歳 この年より東京都港区南青山のグリーンギャラリーにて隔年制の個展を開催。第3回「日本陶芸展」に《糠釉鎗手大鉢》を出品し、優秀作品賞(文部大臣賞)を受賞。
- 昭和 52(1977)年 50歳 第51回「国画会展」に《飴釉白掛鎗手大深鉢》を出品し、会友優作賞受賞。
- 昭和 53(1978)年 51歳 国画会の会員に推挙。
- 昭和 54(1979)年 52歳 第53回「国画会展」に会員として《飴釉丸壺》を初出品。6月、第5回「日本陶芸展」の特別記念招待作家に選ばれ《糠釉鎗手大鉢》を出品。最優秀作品賞の候補として残るが惜しくも3位となる。瀬戸式登り窯に改築するが失敗。
- 昭和 55(1980)年 53歳 第54回「国画会展」に《海鼠釉面取鉢》を出品。
- 昭和 56(1981)年 54歳 再度、丹波式登り窯に改める。第55回「国画会展」に《柿釉四方瓶》を出品。
- 昭和 57(1982)年 55歳 8月、病気のため入院。「くらしの焼き物展」に《白釉鎗手土瓶》《白釉菊鉢》《飴釉角皿》《白釉鎗手皿》《黒釉鎗手鉢》を出品。11月4日、逝去。享年55歳。
- 昭和 58(1983)年 生前に出品委嘱されていた《飴釉鎗手大鉢》が遺作出品として第1回「全国日本伝統工芸展選 抜展」に出品。

凡例：C(頃)、H(高さ)、W(幅)、D(奥行)、φ(同径)

NO	整理番号	資料名	員数	製作年	法量(cm)	掲載頁
139	6401-139	糠釉面取徳利	1	1977	H12.8×W7.5×D7.5	
140	6401-140	脩徳利(スズメ)	1	1972C	H13.3×φ8.5	
141	6401-141	掛分徳利(スズメ)	1	不詳	H13.3×φ7.7	
142	6401-142	柿釉黒流しローソク徳利	1	1971C	H20.3×φ9.5	
143	6401-143	鉄流掛ローソク徳利	1	1970C	H26.6×φ11.5	14
144	6401-144	丸もん徳利	3	不詳	H14.5×φ9.3	
145	6401-145	掛分面取徳利	2	不詳	H13.8×W8.5×D8.0	
146	6401-146	徳利(白黒掛け)	3	1973C	H16.5×φ7.8	
147	6401-147	焼締徳利	1	1975C	H12.5×φ8.0	
148	6401-148	糠釉面取徳利	1	不詳	H14.0×W8.0×D8.0	
149	6401-149	黒釉イッチン徳利	1	1971C	H11.0×φ8.5	
150	6401-150	糠釉黒ローソク徳利	1	不詳	H16.2×φ7.4	
151	6401-151	脩釉鍋手建水	1	1970C	H10.5×φ18.5	
152	6401-152	糠釉瓜壺	1	1973	H17.9×φ17.3	
153	6401-153	掛分面取壺	1	不詳	H18.5×W21.5×D21.5	
154	6401-154	糠釉飯碗	1	不詳	H6.9×φ10.3	
155	6401-155	糠釉急須	1	不詳	H13.6×W18.5×D19.5	
156	6401-156	掛分扁壺	1	不詳	H26.7×W27.8×D19.0	08
157	6401-157	掛分面取壺	1	不詳	H29.7×W17.7×D17.5	06
158	6401-158	糠釉鍋深鉢	3	1976C	H7.5×φ15.0	
159	6401-159	白釉面取壺	1	不詳	H18.0×W24.0×D24.0	
160	6401-160	柿釉四方壺	1	不詳	H17.7×W17.0×D17.0	
161	6401-161	柿釉黒流壺	1	不詳	H14.8×φ16.2	11
162	6401-162	自然釉焼締徳利	1	不詳	H16.0×φ10	
163	6401-163	掛分面取壺	1	不詳	H20.4×W10.8×D10.8	
164	6401-164	黒釉鍋筆筒	1	不詳	H13.0×φ11.3	
165	6401-165	糠釉コーヒー碗	5	不詳	H6.5×W12.7×D11.0	15
166	6401-166	掛分取手碗	1	不詳	H5.6×W13.5×D10.2	
167	6401-167	糠釉面取鉢	6	不詳	H17.8×φ13.0	
168	6401-168	黒釉面取鉢	2	不詳	H17.6×φ13.4	
169	6401-169	糠釉飯碗	1	不詳	H17.2×φ11.4	
170	6401-170	黒釉いっちゃん蓋物	1	不詳	H9.8×φ10.5	
171	6401-171	掛分蓋付どんぶり	1	不詳	H10.8×φ15.2	
172	6401-172	脩釉鍋鉢	1	不詳	H9.2×φ24.3	
173	6401-173	黒釉鍋鉢	1	不詳	H8.0×φ21.0	07
174	6401-174	黒釉六角三品盛	1	不詳	H3.7×W17.0×D18.0	
175	6401-175	糠釉鍋皿	1	不詳	H4.8×φ25.2	
176	6401-176	海鼠釉四方鉢	1	不詳	H4.7×W19.0×D18.7	
177	6401-177	脩釉白掛鍋皿	1	不詳	H3.6×φ20.7	
178	6401-178	柳描皿	2	不詳	H1.8×φ15.0	
179	6401-179	流掛蓋付どんぶり	1	不詳	H11.0×φ15.2	
180	6401-182	褐釉魚彫紋壺	1	不詳	H35.0×φ63.0	
181	6201-001	脩釉茶碗	1	1975	H8.9×φ13.4	
182	6201-002	糠釉面取壺	1	1970	H21.6×W25.0×D24.0	
183	6201-003	脩釉面取壺	1	1971	H25.5×W17.8×17.5	
184	6201-004	黒釉段付柿打壺	1	1970	H22.4×φ18.4	
185	6201-005	イッチン文鉄差皿	1	1965	H4.9×φ25.6	
186	6201-006	黒釉鍋手土瓶	1	1979	H19.8×W24.7×D18.3	07
187	6201-007	黒釉面取壺	1	1980	H15.9×W18.6×D18.4	
188	6201-008	脩釉白流しローソク徳利	1	1965	H16.7×φ9.5	14
189	6201-009	掛分壺	1	1965	H17.5×φ12.5	
190	6201-010	黒釉筒描茶器	6	1977	急須H10.2×W16.2×D14.0 湯呑H7.3×φ8.0	14

NO	整理番号	資料名	員数	製作年	法量(cm)	掲載頁
191	6201-011	鉄砂茶器	7	1977	急須H10.3×W16.2×D13.5 湯呑H5.5×φ7.4	
192	6201-012	脩釉徳利	1	1977	H12.8×φ9.6	
193	6201-013	白釉鍋手大皿	1	1975	H13.6×φ54.5	03
194	6201-014	脩釉線彫文ジョッキ	1	1963	H16.2×W17.0×D10.5	14
195	6201-015	海鼠釉面取茶碗	1	1975	H7.7×φ14.3	
196	6201-016	黒釉鍋手壺	1	不詳	H34.0×φ16.6	07
197	6201-017	黒釉茶碗	1	不詳	H9.4×φ12.5	
198	6201-018	糠釉面取筆筒	1	不詳	H13.5×W11.5×D12.0	
199	6201-019	灰釉イッチン文蓋壺	1	不詳	H10.0×φ10.8	
200	6201-020	脩釉瓜型蓋壺	1	不詳	H9.5×W10.8	
201	6201-021	脩釉糠かけ鍋大鉢	1	不詳	H13.0×φ57.5	03
202	6201-022	脩釉糠かけ鍋大鉢	1	不詳	H14.0×φ61.0	
203	6201-023	黒釉瓜瓶	1	不詳	17.5cm×18.5cm	
204	6201-024	糠釉コーヒー茶碗	5	不詳	ｶﾞﾌH6.5×W11.0×D8.5 皿H2.2×φ15.5	
205	6201-025	鉄砂茶碗	1	不詳	H7.7×φ14.4	
206	6201-026	糠釉茶碗	1	不詳	H9.1×φ12.7	
207	6201-027	脩釉鍋手白掛六寸皿	2	不詳	H3.0×φ17.0	
208	6201-028	糠釉鍋手コーヒー碗皿	1	不詳	ｶﾞﾌH7.0×W11.0×D7.3 皿H3.0×φ5.7	
209	6201-029	掛分釉押文小鉢	5	不詳	H6.3×φ11.4	
210	6201-030	糠釉スープ碗	3	不詳	H6.8×W13.0×D12.2	
211	6201-031	焼ゞ徳利	1	不詳	H15.9×φ9.9	
212	6201-032	海鼠釉面取筒湯呑	3	1975C	H8.3×W7.9×D7.2	13
213	6201-033	鉄砂番茶器(急須・湯呑)	6	1975C	急須H10.2×W16.7×D11.0 湯呑H5.7×φ7.2	
214	6201-034	灰釉鉄線文番茶器(急須・湯呑)	6	1976	急須H10.2×W16.4×D10.3 湯呑H7.2×φ7.8	
215	6201-035	脩釉瓶	1	不詳	H23.5×φ22.6	10
216	6503-001	掛分角皿	5	不詳	H2.4×W19.5×D19.5	
217	6503-002	白釉角皿	5	不詳	H2.5×W19.0×D14.7	
218	6503-003	掛分小鉢	5	不詳	H5.3×φ11.6	
219	6503-004	黒釉小鉢	4	不詳	H3.7×W13.0×D11.7	
220	6503-005	糠釉鍋手深鉢	5	不詳	H6.8×φ13.0	
221	6503-006	糠釉箱鉢	5	不詳	H8.6×W9.0×D9.5	
222	6503-007	白釉丸皿	6	不詳	H4.0×φ23.5	
223	6503-008	白釉鍋丸皿	5	不詳	H3.5×φ20.8	
224	6503-009	白釉鍋丸皿	1	不詳	H4.3×φ24.6	
225	6503-010	糠釉丸皿	2	不詳	H4.0×φ21.2	
226	6503-011	白釉丸皿	5	不詳	H2.6×φ18.3	
227	6503-012	黒釉鍋菊紋深鉢	1	不詳	H8.5×φ26.5	
228	6503-013	黒釉鍋菊紋中鉢	1	不詳	H5.0×φ28.5	
229	6503-014	白釉面取土瓶	1	不詳	H14.3×W19.6×D13.2	
230	6503-015	黒釉灰皿	1	不詳	H4.3×W13.5×D12.1	
231	6503-016	白釉扁壺	1	不詳	H21.2×W17.3×D13.5	
232	6504-01	黒釉鍋手丸壺	1	1980	H31.0×φ32.5	
233	6504-02	糠釉面取壺	1	1970~75	H22.0×W23.5×24.5	
234	6504-03	糠釉鍋大皿	1	1977C	H10.0×φ43.0	
235	6504-04	黒釉柿打面取花瓶	1	1980	H35.0×W14.5×D14.0	

寄贈者：生田親陽氏(180点)、川崎忠政氏(31点)、大谷教育財団(16点)、角南利彦氏(2点)、田巻敏昭氏(2点)、岡田敬治氏(4点)



所蔵・展示 北栄みらい伝承館(北条歴史民俗資料館)

当館には生田和孝コレクションのほか洋画家 前田寛治の作品、伝統工芸士 加藤廉兵衛の土人形、北条砂丘に関する歴史資料などを収蔵しています。これらの資料・作品を基に町にゆかりのある人物、歴史、自然等を取り上げ、定期的に企画展を開催しています。

〒689-2103 鳥取県東伯郡北栄町田井47-1 TEL.0858-36-4309

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日(土日は除く)・年末年始(12月29日～1月3日)

開館時間：午前9時～午後5時(最終入館 午後4時45分)

WEB：<http://www.e-hokuei.net/2202.htm>

本書は「2020年度北栄町合併十五周年・企画展 生田和孝の手仕事～鳥取民藝運動に連なる丹波の陶工～」(主催：鳥取県・北栄町教育委員会、会期：2020年8月8日(土)～9月27日(日))開催にあたって作成したものです。

Design: KOTANI DESIGN OFFICE

Photo: Yoshinao Sakurai

発行：鳥取県・北栄町 2020年8月